

豊川・国府高一 新

創立100周年 正門や中庭完成

たな歴史へ



完成した国府高の正門

今年創立100周年を迎えた豊川市の国府高校で、3月から整備が進められていた新たな正門や中庭などが完成した。記念式典が24日、同校であり、学校関係者ら約80人が完成を祝った。(川合道子)

在校生を代表してあいさつする高津さん(左)と山本さん(右)も豊川市の国府高で



国府高は一九二〇(大正九)年に宝飯郡高等女学校として開校。県国府高等女学校を経て、四八年に現在の校名に改められた。これまでに三万三千人以上の卒業生を送り出している。正門などの整備は、同窓生でつくる「創立百周年記念事業実行委員会」のメイン事業。整備には同窓生を中心に約二千五百万円

(七月末時点)の寄付があった。正門の開口部はこれまでの倍の十二メートルに拡張し、両脇の門扉などを一新。門扉には伝統の校章、門扉には百周年を記念して新たに制作したスクールマーク「インフィニティ」をあしらった。中庭は、正門付近に広場を設け、その中央部にスクールマークの形をデザインした。広場から校舎奥の「ひょうたん池」へと続く小道も整備。小道の脇には、生徒たちの新たな憩いの場になるようにと芝生が植えられた。

式典で実行委の大島嗣雄委員長は、今回の整備が創立八十周年時から持ち上がった構想だったことに触れ、「先輩方の熱い思いを受け、二十年の歳月はかかったが、本日ここに完成したことを高らかに宣言したい。この事業に多大なご寄付をいただいた皆さんに感謝したい」と述べた。在校生代表として、前生徒会長の三年高津菜那さん(心)と現生徒会長の二年山本稜さん(も)があいさつに立ち、「今後は新入生が新たな正門から高校生活をスタートし、素晴らしい仲間と切磋琢磨して大きく成長し、この正門から巣立つ。希望の門となっていくことを期待したい」と話した。実行委では他に、百年の歴史を紹介する記念誌の発行も計画。十月に予定されていた創立記念式典は、新型コロナウイルスの影響で来年に延期されている。